



•Tackle Guide
竿はカットウフグ用がベストだが、胴がしっかりして穂先が敏感なカワハギ竿も流用可能だ。カットウバリは根掛かりの多いポイントでは一段式がトラブルも少なく、結果的に釣果をのぼせる。

当日のショウサイフグ仕掛け

リが強いと砂の中や根の隙間に潜ってしまい釣れなくなってしまう。
4時半に私を含めた6名で出船。湾口を出た途端に昨日通り過ぎた低気圧の影響で、ウネリが次つぎに押し寄せてくる。船はゆっくりと航行し普段なら30分で着く飯岡沖のポイントに50分ほどかけて到着する。
「水深は15メートル。若干根があるので注意してください」と船長から開始の合図が出た。風もなく、潮もさほど速くはないが、いかせんウネリが高いので仕掛けを海底で安定させるのも一苦労。それでも皆さん、アタリをとらえようと穂先に神経を集中する。しかしフグからのアタリはなく、巻き上げるとエサはそのまま残ってきた。

定させるのも一苦労。それでも皆さん、アタリをとらえようと穂先に神経を集中する。しかしフグからのアタリはなく、巻き上げるとエサはそのまま残ってきた。ちなみにフグの釣り方の一つに、5〜10秒に一回シャクリを繰り返すタイム釣りがあがるが、注意点はフグを散らす原因にもなるのであまり強く強くシャクリすぎないことだ。実川船長も、「タイム釣りは空合わせて掛けるものと勘違いしている人もいるみたいですが、あくまでもフグを寄せる誘いの動作の一つです。タイム釣りにこだわると集中力が薄れて釣りが雑になってしまい、アタリがきても合わせのタイミングが遅れる傾向があります。おすすめするのは、ゆっくりとした誘いでエサの存在をフグにアピールし、常に神経をとがらせておいてアタリがきたらすぐに合わせられる態勢をとっておくことです」
加えて、着底したら張らず緩めずのゼロテンションにするのと、よりアタリをとらえやすいとのこと。



▲今シーズンの飯岡沖のショウサイフグは良型が目立つ

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

「梅雨ナギ」という言葉もあるように、平年並みに入梅した関東沿岸では海況穏やかな日が増えている。手軽な小物からマニアックな中深海釣りまで梅雨時の好調ターゲットを楽しみましょう!

●九十九里飯岡港発↓飯岡沖
本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki
難敵フグとの真剣勝負!!
海況安定後の上昇に期待

アタリもないのに仕掛けを上げてみるとエサはスッテンテン。
「くっそおー」と腹が立つのはエサを見事に失敬した相手に対してではなく、アタリを察知できなかったふがいない自分に対してだ。
そんなエサ取り名人の正体はショウサイフグ。ホバリングしながら音もなく忍び寄ってエサを食い尽くしてしまうのを得意技としている。フグは良型になるほどエサ取りがうまくなる傾向があり、まるで忍者だ。

もちろんこちらも黙ってエサを取られてばかりというわけにはいかない。あの手この手を駆使してアタリを出して掛けてやろうと真剣だ。
取るか掛けるか。そんな駆け引きが楽しい難敵ショウサイフグと対決すべく、5月28日に九十九里飯岡の幸丸へ出てきた。

外房・茨城のフグ釣りではアオヤギエサが定番だが、このところアオヤギが不漁のため入手困難な状態が続いているとのこと。
幸丸でも1パックはアオヤギが付くが追加のエサはアルゼンチンアカエビとなっており、アオヤギエサは宿の在庫がなくなり次第終了となるらしい。
そこで今回、私は以前から試したかったエサを持ち込んでみることにした。

タイム釣りの注意点

船宿で受付を済ませた後に船着き場に向かう。フグ担当の実川船長が準備をしていたのであいさつすると、「今日は取材になるかどうか分からないよ」と先制パンチを食らってしまった。「えっ? 一昨日の釣果は13

全員にアタリ!

最初の場所でも20分ほど粘ったが、型が出ないことから、少しでも底荒れの少ないと思われる水深20メートルに移動。左舷が何やら騒がしいので駆け付けてみると、胴の間の山下さんが4キロ級のヒラメを上げていた。

しかし、このポイントでも肝心のフグからのラブコールがないため、一昨日に好釣果が出た水深12メートルの浅場へ移動となる。
すると1投目に右舷ミヨシの北村さんが25センチのショウサイフグを掛けたものの後が続かない。

再取材を覚悟したが、せめて持ち込んだエサの実証実験はしたいものだ。そこで左舷ミヨシの戸川さんに、「これを付けてみてくれませんか」と私が手渡したのはカキ。塩で締めたものだが、それでも軟らかいのでアオヤギの間にサンドイッチにして付

けてもらった。
すると投入直後にクックときて20センチのショウサイフグが掛かってきた。その後、カキエサは食われるもののフッキングには至らずエサ切れ。効果は分からないまま実験終了となった。
残り時間も1時間となり、アオヤギをエサ付けした仕掛けの写真を撮ったついでに仕掛けを投入してみた。

すると1投目に25センチ、2投目に28センチのショウサイフグが釣れ上がり、3投目には15センチのカサゴがヒットしてきた。
「あれっ? いるじゃないの?」と再び投入するとコツンとアタリ。間髪入れずに合わせを入れる、ズドンと重たい手応えと強烈な引き込みが襲ってきた。

「まさかヒラメか?」と慎重に巻き上げているとギユギユーンと横走り。それを見た船長の、「鈴木さん、それはサメだな」という言葉にテンションはタダ下がり。しかし、釣れ上がったのは40センチのショウサイフグだった。

私一人だけこの好調さはいったい何だろうか? 皆さんと違うのは集魚アイテムを付

知得! Tips and Tricks
濁り潮には集魚アイテム
濁り潮には集魚アイテムをおすすめ。当日の私の仕掛けにはカワハギ用の「花火」と25ミリのグリーンケミホタルを装着。これでカサゴを含めて4連続ヒットとなった。
▶ケミホタルなどは常にバッグに忍ばせておこう

31尾となっていました。私が言うのと、「昨日の大雨で川からの濁りと、まだかなりウネリが残っているからなあ」と渋い顔。釣果を左右する要因としては、潮の流れ具合、水色、水温変化、ウネリ、底荒れなどがあるが、泳ぎがあまりうまくないショウサイフグはウネ



けていた点。船長は誘い方がマツチしているのかもと言いが、定かではない。私はこの1尾で竿を置く。次第にウネリが収まってくると、ようやく各所でフグが掛かり始めたが、無情にも沖揚がりの時間を迎えてしまった。
当日はウネリの影響をまともに受けて、釣果は0〜3尾と大不調に終わったものの、これから産卵に向けてフグが群れる季節になるので、期待はまだできるはずだ。

▶小さなアタリに合わせて本命キャッチ

●船宿information
九十九里飯岡港
幸丸
☎0479-57-2258
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=フグ乗合一人1万円(エサ1パック、氷付き)
▶備考=追加エサ1パック500円。無料駐車場あり。出船4時半